





## 緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ、既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲編纂セル所ニシテ毎年之ヲ刊行シ、今ヤ昭和三年ノ統計書ヲ出スニ至レリ。本書、編ヲ分ツコト四、其ノ一ヲ土地戸口等、其ノ二ヲ學事、其ノ三ヲ産業、其ノ四ヲ警察衛生工場等トス。

各編收録スル所主トシテ市町村、學校ノ報告及廳内ノ調査ヨリ之ヲ得、又往往關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ學術ノ進歩世運ノ推移ニ因リ統計ノ用漸ク多キヲ加フ。故ニ材料益々正確調査愈精密ヲ期セサルヘカラス。之ヲ以テ常ニ意ヲ注キ又新ニ收載シ或ハ表象方法ヲ更メタルモノ鮮シトセス。然リト雖尙未タ遺憾ナキヲ得ス。此等ハ漸ヲ以テ改善シ其ノ需要ニ適應セシムル所アラムトス。

昭和五年二月

福井縣知事官房

# 昭和三年福井縣統計書 第一編

## 凡 例

本編ハ昭和三年又ハ昭和三年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ。然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又已ムヲ得サルモノハ昭和三年若ハ昭和三年度以前ノモノヲ掲ケタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度。何年末ト記スルモノハ其年十二月三十一日現在。何年度末ト記スルハ翌年三月三十一日現在。何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間。何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列載シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ。即チ本表現在數ナルトキハ比較數又現在數一年間若ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數又一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルモノハ單位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ滿サルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。又往々外國ノ度量衡ヲ用ヒタルモノアリ。彼我ノ對照ヲ示セハ左ノ如シ。

哩 (マイル) 十四町四十五間八寸三分五厘

噸 (トン) 二百七十貫九百五十匁四

鎖 (チェーン) 十一間三寸八分三厘四

耗 (ミリメートル) 三厘三毛

米突 (メートル) 三尺三寸

瓦 (グラム) 二匁六分七厘

## 昭和三年 福井縣統計書目次

## 第一編 土地及戶口等

## 土地

1	土地總段別	4
2	官有地	4
3	民有有租地段別及地價	4
4	民有免租地年期地種別	6
5	民有免租及無租地段別	7

## 氣象

6	測候所	7
7	氣壓氣溫及濕度	8
8	平均氣壓	8
9	平均氣溫度	8
10	平均濕度	9
11	平均雪量	9
12	降水日數及降水量	9
13	降雪日數及期節	10
14	快晴日數	10
15	曇天日數	10
16	暴風日數	10
17	結霜日數	11
18	最多風方位	11
19	風ノ速度	11
20	風ノ平均速度	12
21	沿海及河川流域雨量	12
22	地力暴風雨信號所	13
23	暴風雨標位置	13
24	測候用無線電信機	13
25	地震計	13
26	地震計ニ現ハレタル震動	13

## 戶口

27	世帯及人口ノ一	14
28	世帯及人口ノ二(種類別)	14
29	配偶關係別人口(郡市別)	15
30	階級年齡及配偶關係別人口(總數)	15
31	構成人員別普通世帯(郡市別)	15
32	推計人口	16
33	現在人口階級ニ別チタル市町村數及其人口	16
34	本籍人口及現在人口並現住戶數	17
35	人口動態總攬(現住地別)	17
36	年齡階級別死亡(現住人)	17

37	月別出生並死産(現住人)	18
38	原因別死亡中分類(現住人)	18
39	年齡及身分別婚姻	19
40	夫妻相互ノ年齡別婚姻	19
41	夫妻相互ノ年齡別離婚	20
42	北海道移住者調	20

## 交通及通信

43	官設鐵道線路及敷地	21
44	官設鐵道運輸	21
45	私設鐵道	22
46	私設鐵道運輸	23
47	郵便	25
48	電報	25
49	電信線路里程及電柱	26
50	電話加入區域及加入者數	26
51	市外電話線路里程及電柱	27
52	市内電話線路里程及電柱	27
53	電話料收入	27
54	瓦斯	27
55	瓦斯製造及消費	28
56	瓦斯火口數及料金	28
57	諸車	28
58	海岸延長及港灣	29
59	港灣ノ狀況	29
60	燈臺	29
61	浮標	29
62	船舶	30
63	港灣入港船舶ノ集數及噸數	30
64	敦賀浦盛斯德間汽船乘客人員	30

## 土功

65	水害員數	31
66	水害損失價額	31
67	工事別土木費決算	32
68	工種別土木費決算	32

## 社寺及宗教

69	神社及神職	32
70	寺院及僧侶	33
71	各宗教派別寺院	33

教育慈惠及褒賞

7 2 行旅病人 .....34

7 3 行旅死亡人 .....34

7 4 濟貧恤窮 .....34

7 5 感化院ノ一(組織、所在、職員、經費等).....35

7 6 感化院ノ二(入院退院者年末現在).....35

7 7 感化院ノ三(身分年齡及保護者關係).....35

7 8 感化院ノ四(改換退院者ノ在院期間及方途).....36

7 9 救濟事業ノ一(育兒).....36

8 0 救濟事業ノ二(施藥救濟).....36

8 1 救濟事業ノ三(幼兒保育).....37

8 2 救濟事業ノ四(窮民救助).....37

8 3 救濟事業ノ五(職業紹介).....37

8 4 救濟事業ノ六(貧兒教育).....38

8 5 救濟事業ノ七(藝娼妓教育).....38

8 6 救濟事業ノ八(免囚保護).....38

8 7 救濟事業ノ九(宿泊救護).....39

8 8 軍事救護.....39

8 9 恩賜財團濟生會.....39

9 0 篤行奇特者.....40

兵 事

9 1 壯丁教育程度別 .....40

9 2 壯丁體格検査 .....40

9 3 壯丁身長及體重最高最低 .....41

9 4 海軍志願兵 .....41

9 5 日本赤十字社員及年禮金 .....42

9 6 愛國婦人會 .....42

議 會

9 7 貴族院多額納稅議員互選者 .....43

9 8 衆議員議員選舉 .....45

9 9 縣會議員選舉 .....46

1 0 0 縣會及縣參事會 .....46

1 0 1 市會議員選舉 .....46

1 0 2 市會及市參事會 .....46

1 0 3 町村會 .....47

官 公 吏

1 0 4 縣廳各部分評 .....47

1 0 5 休職官吏及吏員職員 .....47

1 0 6 縣職員(課別) .....47

1 0 7 市吏員 .....49

1 0 8 町村吏員 .....49

財 政

1 0 9 縣郡市町村水利土功組合歳入出 .....50

1 1 0 直接稅買拂(決算).....50

1 1 1 國 稅 .....51

1 1 2 地 租 .....52

1 1 3 所得稅 .....53

1 1 4 家督相続稅 .....56

1 1 5 遺產相續稅 .....58

1 1 6 醬油稅 .....58

1 1 7 第三種所得稅決定額種別 .....58

1 1 8 織物消費稅 .....60

1 1 9 營業收益稅 .....60

1 2 0 酒造稅 .....61

1 2 1 國稅滯納人員及金額 .....61

1 2 2 租稅外國庫收入 .....65

1 2 3 國庫支出縣經費 .....66

1 2 4 縣歳入 .....68

1 2 5 縣歳出 .....68

1 2 6 縣 稅 .....70

1 2 7 縣稅滯納處分 .....71

1 2 8 特別會計ニ屬スル縣歳入歳出 .....72

1 2 9 福井市歳入 .....72

1 3 0 福井市歳出 .....73

1 3 1 福井市稅 .....74

1 3 2 福井市瓦斯事業費歳入 .....74

1 3 3 福井市瓦斯事業費歳出 .....74

1 3 4 福井市水道布設費歳入 .....75

1 3 5 福井市水道布設費歳出 .....76

1 3 6 町村歳入 .....76

1 3 7 町村歳出 .....78

1 3 8 町村稅 .....80

1 3 9 市町村稅滯納處分 .....80

1 4 0 普通水利組合歳入 .....82

1 4 1 普通水利組合歳出 .....82

1 4 2 水管豫防組合歳入 .....83

1 4 3 水管豫防組合歳出 .....83

1 4 4 縣有財產ノ一 .....83

1 4 5 縣有財產ノ二 .....85

1 4 6 縣有財產ノ三 .....85

1 4 7 福井市基本財產 .....85

1 4 8 町村基本財產 .....86

其ノ他

1 4 9 令達發布件數 .....86

1 5 0 收受發送文書件數 .....86

# 總 說

## 位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終ル、東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始マリ、西ハ東經百三十五度二十五分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ、西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ、北ハ日本海ニ面シ航路ニ晝夜ヲ隔テテ遠ク浦鹽ト相對ス。

## 地 勢

越前ハ四面山ヲ圍ラシ中央ノ一大盆地ヲ所謂越前平野トナス東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ、岐レテニ脈トナリ、重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ニ走リ、大日、油坂、堀嶋子、荒島、冠嶽ノ諸峰トナリテ極メテ急峻ナリ。一ハ國ノ中央ヲ稍低ク走リテ經ク嶽、兜山、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈莚、劍ヶ嶽等ノ諸山トナル。又國ノ西方ヲ籠ル一脈アリテ國見、鷹巢、越知ノ諸山トナリ、山嶽日本海ニ迫リテ平地ヲ見ズ。

河川ハ概ネ東南ノ山間ヨリ發シ九頭龍、足羽、日野ノ三川トナリテ西北シテ三湖港ニ入ル、其流域灌溉ニ適シ土地肥沃ニシテ五穀豐饒ス。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ、南方ニ三十三間、多太、後瀬、青葉等ノ峯巒國境ヲ限リ北方ニ傾斜シテ海ニ至ル、土地狹ク水田ニ乏シ、遂ニ養蠶ノ發達ヲ來スニ至レリ。

## 廣 表

總面積二百六十方里餘ヲ有シ、廣表全國四十六府縣中第三十八位ニシテ滋賀縣(琵琶湖ヲ含ム)ニ比シ狹ク埼玉縣ニ比シ稍大ナリ、然レトモ本縣ハ山地三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ、廣表ノ割合ニ利用面積多シ。

## 土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬五千七百三十七町四段、內國有五千四百三十四町三段、民有二十三萬三千三百三町一段ナリ。民有青租地ハ十八萬一千八百二十一町七段ニシテ民有地ノ七割九分ニ當リ、免租及年期地ハ四萬八千四百八十一町四段ナリ。國有地ハ山林四千七百六十二町六段、官公署其ノ他ノ敷地六百七十一町七段ノミナリ。免租地ハ保安林四萬六千二百二十八町七段、社寺地百五十一町一段、官公署及其ノ他敷地十三町一段、墳墓地百八十二町四段、其他ノ土地千三百四十四町一段等ナリ。年期地ハ田及其ノ他ニ五百六十二町步アリ。

## 氣 象

本縣ハ地勢ノ關係上大陸ヨリ濕氣ヲ含ミテ來襲シ國境ノ連峯ニ遮ラレテ濕氣ニ富ムヲ常トス。殊ニ冬季ハ積雪多ク各種産業

上ニ影響スル處多シ。昭和三年十二月ノ溫度ハ八十七度ニシテ年中平均ハ八十二度ヲ示シ、氣溫ノ最高ハ九月ノ三十五度一分、最低ハ一月ノ零下八度四分トナリ、年中ノ平均溫度ハ十三度九分ヲ示ス。降水日數ハ一月最モ多クシテ二十七日、二月、十二月ハ何レモ二十五日等ナリ。全年降水日數ハ二百四日ニシテ雨天ハ殆ント三分ノ二ニ當リ、降水量ハ一月、十二月最モ多ク三百耗以上ニ達シ、一年間ヲ通スレバ實ニ二千八百八十六耗ヲ算ス。又昭和三年十二月十七日初雪、昭和四年三月二十二日終雪ナルカ故ニ此ノ降雪期間九十七日ニ及ヒ最深積雪三尺七寸餘ニ及ベリ。快晴日數僅カニ二十六日、曇天百九十八日、暴風一日、結霜日數三十七日等ナリ(福井測候所ニ依ル)

## 戶 口

世帯及人口 本縣ノ世帯總數ハ十二萬四千九百九十六、人口ハ五十九萬五千二百三十三人ニシテ、密度ハ一方里ニ付二千二百九十八人トナリテ全國平均二千四百七十七人ヨリ百十七人少シ。總人口中男ハ二十九萬二千六百六十八人、女ハ三十萬四千八百五十五人ニシテ女百人ニ付男九十五人ニ當リ、全國平均女百人ニ付男百二人三分ニ比シ男ノ割合少キハ纖維工業地タルノ故ナラン。

世帯總數中普通世帯ハ十二萬四千九百九十六、之ニ屬スル人員五十八萬七千七十八人準世帯ハ七百七十、之ニ屬スル人員八千五百五人ニシテ普通世帯及同人ハ總數ノ九割九分ヲ占ム。而シテ一世帯平均人員ハ普通世帯四人七分準世帯ハ二十三人五分一厘、兩者ヲ通シテ四人七分三厘トナル。

配偶關係 總人口五十九萬五千二百三十三人中未婚者ハ略其ノ半ヲ占メ二十九萬二千四百五十七人アリ、有配偶者之ニ亞ギ二十四萬二千二百五十八人ヲ算シ總人口ノ四割一分ニ當リ、死別者五萬三千二十六人、離別者七千三百八十二人ナリ。而シテ男女ノ割合ヲ觀レニ未婚ニ於テハ男多ク他ノ三者ハ熟レモ女多シ。殊ニ死別ニ於テハ男ハ三倍シ離別ニ於テハ約二倍ス。次ニ可婚年齡ト見做スヘキ十五歳以上ノ者總數三十七萬三千二百二十一人中ノ配偶關係ヲ觀レニ未婚七萬五百八十九人、有配偶二十四萬二千二百五十八人、死別五萬三千二十六人、離別七千三百八十二人トナリ未婚一人ニ付既婚四人ノ割合ナリ、更ニ之ヲ男女別ニ觀レバ男ハ未婚一人ニ付既婚三人、女ハ未婚一人ニ付既婚六人トナル(以上ハ大正十四年國勢調査ノ結果)

之ヲ大正九年ノ國勢調査ノ結果ニ比スレバ普通世帯ニ於テハ百九十三増シタルモ準世帯ニ於テ十五減シ人口ニ於テ千六百人ヲ減シタルノ外人口ノ密度一世帯ノ平均人員及配偶關係ノ構成等ニ於テハ殆ント前回同様ノ現象ナリ。

人口動態 昭和三年中ノ婚姻ハ五千七百二十六人、離婚六百五十五人ニ

シテ出生ハ男一萬九百三十一人、女一萬六百二十二、計二萬一千五百五十三人ニ達ス。男ハ女ヨリモ三百九人ナク多ク生産シタリ。同年中死亡セルモノハ男七千三百二十四人、女七千七百四十五人、計一萬五千六十九人ナルガ故ニ出生、死亡ノ差ハ六千四百八十四人ノ自然増加トナリ、前年ニ比スレバ六百八十三人ノ増加ヲ示ス。尙最近十ヶ年間ニ於ケル平均ハ年五千八百四十一人ノ増加ヲ示セリ。

原因別死亡

昭和三年中ニ於ケル死亡原因別ヲ示セバ死亡者千人中其ノ最高率ハ下痢及腸炎ノ百六十二人三分ニシテ。之ニ亞クハ肺炎及氣管支肺炎ノ九十三人、老衰ノ七十三人三分、畸形先天性弱質及乳兒ニ固有疾患ノ六十八人七分、肺結核五十九人等ニシテ特ニ本縣ニ於ケル肺結核患者ノ多キハ世人ニ注目セラルル處ナリ。

交 通

道 路

交通ノ狀況ハ國道府縣道ノ總延長四百四十六里餘ニシテ、面積ニ比シ少シトセサルモ山地ノ割合ニ多キ關係上其一部或ハ險路峻坂トナリ、或ハ幅員狹少ナルヲ以テ毎年比較的多額ノ經費ヲ投シ之カ改良ニ努ムルコトナリトス。殊ニ昭和三年度ニ於テハ縣下各地ニ於テ業道路開鑿ヲ計劃セルモ昭和四年度ニ於テ縣財政緊縮ノ爲經緯年度ヲ二ヶ年延長シ其ノ一部ヲ後年度ニ繰延ベ總工費五百五拾四萬六千參百八拾圓ト變更スルノ已ムナキニ至リタルモ目下施行中ナリ。

鐵 道

鐵道ハ總延長百六十五哩ニ達シ北陸本線、小濱線及三國線ノ外、私設鐵道七線アリ。更ニ計劃中ニ屬スル越美線ノ開通ヲ見バ交通運輸上裨益スル所多カラン。

諸 車

諸車ハ昭和三年末現在ニ於テ馬車千五百五十九臺、牛車百十五臺、荷車二萬七千五百三十八臺、人力車四百七十七臺、自轉車四萬二千七百七十七臺、自動車三百二十二臺其ノ他ノ車千三百八臺、總計七萬三千六百三十六臺ニ達ス。而シテ此等ノ内自轉車ハ急進的ニ、自動車ハ漸進的ニ増加シ、人力車ハ著シク衰微ノ傾向ヲ示セリ。

社 寺 及 宗 教

神社及神職

昭和四年末本縣ノ神社總數ハ千六百八十四社、神職百七十七人アリ、内官幣大社、官幣中社、別格官幣社各一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二十四、郷社四十八、村社千二百七十、無格社三百三十六ナリ。

寺院及僧侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和四年末ニ於ケル寺院總數實ニ千六百五十七、僧侶千六百七十八人ニ達シ寺院一ニ付世帯數僅カニ七十五ニ當ル。寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ眞宗ノ

八百七十四最モ多ク縣下寺院總數ノ半ヲ占メ之ニ亞クハ曹洞宗二百七十二、日蓮宗百三十三、天壽宗百十一、淨土宗百、臨濟宗八十三、眞言宗六十二、時宗二十、黃檗宗二等ナリ

兵 事

昭和四年ノ壯丁体格検査人員ハ總數六千二百八十七人内甲種千七百九人ニシテ總數ノ二割七分ニ當リ第一乙種五百二十七人(八分四厘)、第二乙種千二百九十五人(二割一分)トナリ又丙種二千二百九十一人、丁種四百五十五人、戊種十人併セテ四割三分六厘ニ當ル。之ヲ前年ニ比シ甲種及第一乙種ニ於テ幾分増加セリ。教育程度ニ於テハ高等學校卒業又ハ同等以上ノ者三十人中學校卒業又ハ同等以上ノ者六百三十八人、高等小學校卒業又ハ同等以上ノ者三千四百七十七人、尋常小學校卒業又ハ同等以上ノ者千八百五十一人、尋常未卒業及不就學者三百四十人ニシテ高等學校卒業者又ハ同等以上ノ者ハ増加シ、中學卒業又ハ同等以上ノ者ハ減少シ高等小學卒業又ハ同等以上ノ者ハ著シク増加シ、尋常小學校卒業及尋常未卒業及不就學者ハ減少ヲ示セリ。身長ハ最高五尺九寸九分、最低四尺五分、體重ハ最重十九貫五百二十匁、最輕七貫目ナリトス。

官 公 吏

縣 職 員 昭和四年九月一日現在ノ本縣職員ハ千四百十八人ニシテ其ノ俸給年額八拾六萬貳千四百五拾九圓トナル内勅任一人、委任十八人、同待遇四十三人、判任百五十七人、同待遇六百六十六人、縣吏員百五十五人、雇員三百五十七人、嘱託二十一人等ナリ。

市 吏 員 市長、助役、收入役各一人、主事二人、技師四人、書記五十一人、技手十七人其ノ他三十人合計百七人ニシテ之ノ俸給年額八萬壹千五百貳拾八圓トナル。

町村吏員 町村長百七十人、助役百六十五人、收入役百五十七人、區長二千三十一人、同代理者千九百七十二人、常設委員五百九十四人、書記六百九十五人、技術員三十五人、事務雇六十八人、其ノ他五人、合計五千八百九十二人トナル内名譽職ヲ除ク有給吏員ノ俸給年額ハ三十九萬貳千參百八圓トナル。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ有リテハ僅カニ貳拾八萬參千餘圓ニ過キザリシガ、日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ルニ漸ク經濟ノ膨脹ヲ來シ明治二十九年度ニ至リテハ約三倍ニ上リ、加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修事業ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ヲ増嵩シメリ茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ル要ニ迫リ、明治三十五年度及同三十七年度ノ兩回ニ亙リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ其ノ後戰後ノ經營ト時運ノ進歩ニ伴ヒ財政ノ膨脹ヲ來シ、加フルニ郡制ノ廢止ニ依リ自然縣事業ノ増加ヲ來シ縣費ハ愈々急



順シタルヲ以テ大正十二年政府ノ方針ヲ体シテ一大整理方針  
ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通シテ極力整理緊縮ヲ致行シ爾來其  
ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ、繼續事業ニシテ已  
ムテ得サルモノ等アルニ依リ昭和四年度當初豫算ハ六百貳拾  
參萬八千九百七圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ前年度當初豫算ニ比  
スレバ拾五萬七千七百四拾參圓ヲ減シタルモ大正九年度ノ決  
算ヨリ百五拾六萬三千八百五拾壹圓ヲ増加セリ。

市町村

市町村財政ノ狀況ヲ觀ルニ昭和四年度豫算ニ於テ市費八拾參  
萬五千貳百六拾八圓、町村費六百拾六萬八千貳百五圓ニシテ  
之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年度ニ比スレバ市町  
村ヲ通シテ實ニ二十倍餘ニ達セリ、縣ハ不斷緊縮方針ヲ以テ  
之ヲ率フル所アリシモ社會ノ進運ニ伴ヒ教育、土木、産業、  
其ノ他各般ノ施設ニ依リ自然膨脹ヲ餘儀ナクセシメタルニ外  
ナラズ。

諸稅負擔

昭和三年度ノ本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅  
總額ハ貳百拾四萬七千參百拾壹圓、一世帶當拾七圓拾八錢、縣  
稅總額參百貳拾參萬九千七百九拾貳圓、一世帶當貳拾五圓九  
拾貳錢、市町村稅總額參百八拾七萬壹千六百八拾四圓、一世帶  
當參拾圓九拾七錢トナレルモ直接國稅ノ比較的少キヲ以テ其  
ノ負擔額モ各稅中ノ低位ニアリ。

港 灣

(敦 賀 港)

港灣ノ修築

本港ハ大正二年港灣改良工事竣成後更ニ大正十一年度ヨリ同  
十八年度ニ至ルハ八年ノ繼續事業ニテ港灣修築計劃成リ國費  
參百四拾萬圓ヲ以テ大正十一年九月十四日之レカ起工式ヲ舉  
行セリ、然ルニ大正十三年政府ノ都合ヲヨリ一ヶ年繰延昭和  
五年度ニ於テ竣工ノ豫定ニシテ目下工事中ナリ而シテ本計劃  
ハ新ニ延長三百二十三間ノ繫船岸壁ト約九十間ノ護岸トヲ得  
ルモノニシテ之カ竣工ノ曉ニハ一ヶ年約五十萬噸ノ貨物ヲ取  
扱ヒ得ヘシ。

水深ノ變化

港内廣潤ニシテ水極メテ深ク暗礁砂洲等障害物ニ乏シク隨ツ  
テ大船巨艦ト雖モ通航自在且少繫碇安全ナリ。船舶ノ集合地  
點ノ陸岸ヨリ二百米突乃至二百七十米突ニシテ潮位及潮流ハ  
零位ヨリ二尺迄ヲ最高トス。

港灣ノ消長

敦賀港ハ古來江州濃尾並ニ近畿地方トノ水陸連絡ノ要港タル  
ノミナラス北海道ニ對スル輸出入貨物ノ集散港トシテ夙ニ世  
ニ知ラレタリ。且ツ地理的關係上對外的ニハ遠ク神功皇后三  
韓出師ノ當時其ノ策源地タリシ所ナリ。其ノ後或ハ外國使臣  
來朝ノ應接地トナリ又ハ政事軍事上ノ中心トナリシ歴史ヲ有  
ス。故ニ維新以後政府ハ本港ノ開發ニ意ヲ用ヒ明治十四年濱  
口ニ燈臺ヲ新設シテ航路ノ安全ヲ計リ又明治十七年敦賀長濱

間ノ鐵道ヲ布設シテ近畿地方トノ交通ヲ便ナラシメ續テ明治  
二十九年十月當港ヲ特別輸出港ト指定シ同三十二年七月開港  
令ノ公布セララルルヤ當港ヲモ亦其ノ一ニ加ヘタリ。其ノ後西  
伯利亞鐵道ノ全通スルニ及ヒテ歐人ノ東洋ニ來ラムトスルモ  
ノ多クハ此ノ便ニ依ルヲ以テ旅客ノ往來日ヲ追フテ頻繁トナ  
リ貨物集散モ隨テ増加スルニ至レリ。爾來政府ハ本港修築ノ  
必要ヲ感スルニ至リ第二十五議會ノ協賛ヲ經テ明治四十二年  
以降四ヶ年ノ繼續事業トシテ工費八拾萬圓ヲ以テ第一期修  
築工事ヲ起シ該工事ハ大正二年度ニ於テ竣工セシモ間モナク  
歐洲戰爭勃發シタル結果本港ハ我國ニ於ケル軍事上將又經濟  
上愈々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リシノミナラス貨物激增シ第  
一期ノ修築工事ノミニテハ設備ノ不足ヲ告グルニ至レルヲ以  
テ更ニ第二期修築工事ノ必要ヲ認メ第四十五議會ノ協賛ヲ經  
テ更ニ大正十一年度ヨリ之レカ起工式ヲ起スニ至レルモ大正十  
二年九月一日ノ關東地方震災ノタメハ八ヶ年繼續事業ヲ一ヶ年  
延期セララル、ノ止ムナキニ至レリ。歐州大戰中非常ナル發展  
ヲ遂ケタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰頹ヲ來  
シ其後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。而シテ昭和三年中當港ヨ  
リノ輸出ハ六萬三千四百九十九噸、價額貳百五拾七萬六千九  
百四圓、輸入ハ二十三萬四千八百二十八噸之ノ價額千六百五  
拾貳萬五千貳百參圓ニシテ輸出ノ重ナルモノハ雜貨及繩蔴類  
トス。雜貨ハ鐵道便ニヨリ京阪地方ヨリ輸送シ來リ北海道、  
北鮮(元山、城津、清津方面)露領、亞細亞及支那方面ニ繩、蔴類  
ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ産スルモノ及郡内產ヲ併セ北  
海道方面ニ輸出セララル。輸入ノ重ナルモノハ内石炭ハ北海道及  
九州ヨリ輸入シ多クハ鐵道用炭トシテ其ノ他ハ本縣下及滋賀  
縣下ノ工業用炭トシテ消化スルモノトス。尙豆粕、精穀、鹽  
乾魚、魚肥類ハ北海道、朝鮮方面ヨリ、縣内ハ勿論近江、京  
阪神及名古屋中央線一圓ニ輸出セララル狀況ニアリ。

440 402 091 500 100  
200 112 874 340 300 100  
1003 102